

呴とカマス 東總地域の生活習俗と大原幽学

The Kamasu Bag and the Word "Kamasu": Customs in the Toso Region and OHARA Yugaku

はじめに

- ① 性学の呴
- ② カマスヅキアイの民俗的諸相
- ③ 呴とカマス
おわりにかえて

[調査報告書]

千葉県には運搬容器の呴に象徴されるカマスヅキアイという社会慣行が超世代的に伝承されている。クミウチなどで葬儀があるとカマスナカマの家から葬家に手伝いとしてのハタラキを出すほか、自分たちの食い扶持としてカマス米を持ち寄る。このツキアイは香奐帳に記され、文書記録としても伝承される。対して天保・幕末期に東總地域で伝統的生活習俗を改変し村落改革を行った大原幽学関連の史料に「年頭呴控」がある。幽学の門人が毎年正月に納める呴米および牛頭錢の収入記録であり、用途は検討にあたり、「年頭呴控」については内容分析と登場する門人の地域分布を求めた。カマスヅキアイの習俗についてはムラ単位の個別研究はあるが県内分布状況は明

らかでないため、管見できる民俗調査報告書類・筆者調査事例より習俗一覧・分布図を作成した。結果、カマスヅキアイを組むカマスナカマは葬儀の場で死者の家族と共に同じ釜で米を食すことにより、共に死の忌にかかる。それゆえ単なる地縁的集団ではなく結束の強い集団であるといえる。幽学門人の分布はカマスヅキアイ分布と重なる。各ムラでカマスヅキアイを伝承する門人が、カマス米の発現の場と機能を年頭として性学に移し、幽学を助けるために活用した姿が見えてくる。門人は幽学という共通目標の下に集まつた思想を共にする集団であり、その結束の強さはカマスナカマに匹敵し、同じ釜の飯を食べることによりその結束はより強まつた事が予想される。これまで幽学指導による生活習俗の改変に注意が向けられてきたが、カマスヅキアイと年頭呴の検討は、門人による生活習俗の性学への能動的・積極的導入という新しい視点を提示するものである。

139